

北海道浮魚ニュース

平成 13 (2001) 年度 7 号 (通巻 No.100)

2001 年 7 月 17 日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-32-7177	Fax : 0162-32-7171
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2001年7月2～5日、9～12日
- ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖～津軽海峡）

魚体サイズは昨年並みで、高密度の分布を確認

1. 水温分布 (図 1、2)

表面水温は、太平洋側で 13.9 ~ 15 の範囲にあり、昨年に比べ 0.5 ~ 5 ほど低い値を示し、過去 10 ヶ年の平均値並の値でした。水深 50m 層の水温は、太平洋側でほぼ昨年並みの 5 ~ 11 台でした。また、津軽海峡内では、表面及び水深 50m 層とも昨年と同様の水温値でした。

2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

調査を行った 4 地点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は、0.8 ~ 362 の範囲 (昨年 : 1.6 ~ 36.9) にありました。下北半島沖の St.8 を除く各点で昨年の値を上回りました。特に南茅部沖の St.1 では、非常に高い値 (362) でした。また、全点の平均は 116.6 であり、平成 6 年以降で最高値を示しました。

なお、今年は調査船の新造によって装備 (釣機や集魚灯など) が新しくなり、以前よりも漁獲効率が高くなっている可能性があります。

3. スルメイカの大きさ (表 1)

スルメイカの外套長 (胴長) は、調査点全体で 9 ~ 24cm (昨年 12 ~ 20cm) の範囲にありました。モード (ほぼ平均的な大きさ) は海域により差が見られ、St.1 と St.15 では昨年同様 15cm にあり、海峡内の St.16 では昨年よりも 3cm 大きい 19cm でした。

4. まとめ

道南太平洋におけるスルメイカの分布状況は、日本海側の分布密度が高いことを反映し、特に津軽海峡内や南茅部沖の魚群密度も高くなっていると考えられます。

(文責 : 函館水試資源管理部 : Tel (0138) -57-5997 直通)

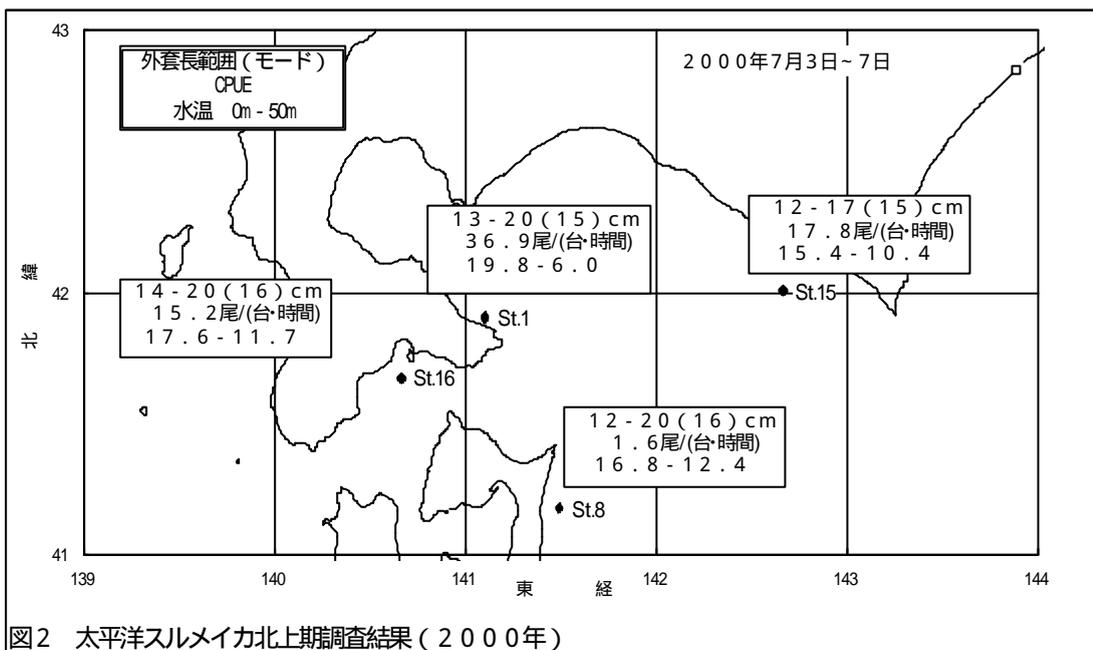
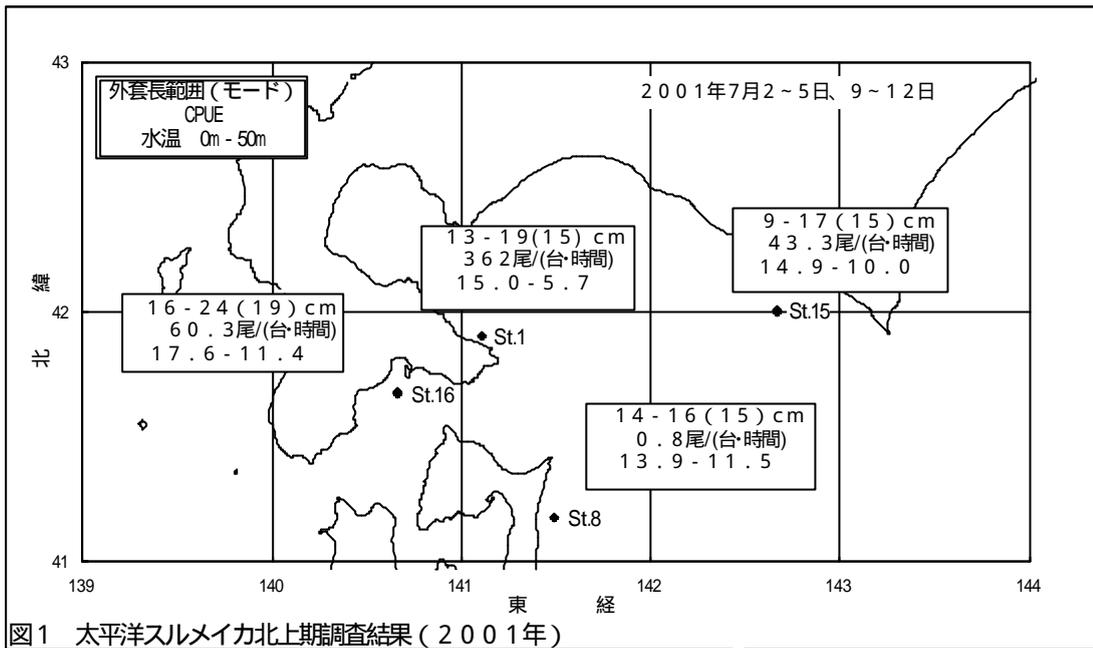


表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のC PUEと外套長の経年変化

	1994(H6)	1995(H7)	1996(H8)	1997(H9)	1998(H10)	1999(H11)	2000(H12)	2001(H13)
4調査点の 平均C PUE (尾/台・時間)	7/11-21 4.3	7/5-13 10.9	7/4-19 7.4	7/1-9 20.0	6/29-7/7 2.9	6/28-7/8 1.1	7/3-7 17.9	7/2-5、9-12 116.6
外套長の範囲 (cm)	8-29	11-26	11-27	12-26	12-24	14-25	12-20	9-24
外套長モードの範囲 (cm)	18-22	16-20	15-19	16-24	15-17	14-18	15-16	15-19